

キャラクター名
春場 恵一 (はるば けいいち)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	UGNチルドレンB	カヴァー	なし
	エンジェルハイロウ					
オプション	ノイマン		年齢	15	性別	男
覚醒	命令	衝動	恐怖	初期侵食率	32%	
出自	複数の兄弟姉妹がいる		経験	純粹培養	邂逅	同行者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	23
肉体	1	0	0			1	行動値	13
感覚	5	1	0			6	(非装備時)	13
精神	1	0	0			1	戦闘移動	18
社会	1	0	0			1	全力移動	36

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	2		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ハンドレッドガンズ	射撃	6r+2	-	8		
ハンドレッドガンズ100%	射撃	6r+2		9		
ハンドレッドガンズ160%	射撃	6r+2		10		
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス: 戦闘人格 (上級)	P	N		
固定: 秋月衣百さん	P 好意	N 不信感		
固定: ルドルフさん	P 幸福感	N 嫌悪		
シナリオロイス: 緒方レミ	P 有為	N 嫌悪		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト: ノイマン	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: C値-LV(下限値7)								
マルチウェポン	4	3	メジャー	武器	-	対決	-	
効果: 武器二個合計できる。判定達成値 - [5-Lv] (最大0) する。								
ヴァリアブルウェポン	1	3	メジャー	武器	-	対決	リミット	
効果: マルチウェポンと同時に使用。攻撃に使用する武器と同じ技能の武器をLv個選び、組み合わせた攻撃の攻撃力を+ [選択した武器の合計] する。								
ハンドレッドガンズ	4	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 武器作成。								
ダブルクリエイト	1	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: ハンドレッドガンズと同時に使用。ハンドレッドガンズで一度に2個作成。								
戦神の祝福	2	20	メジャー	武器	-	対決	120	
効果: このエフェクトを組み合わせた攻撃の攻撃力を+ [Lv+4] Dする。1シナリオ1回。								
フラッシュゲイズ	2	3	オート	視界	単体	自動	80	
効果: 対象が判定を行う直前に使用する。その判定ダイスを- [Lv×2] 個する。1ラウンド1回。								
成分分析	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 物体に含まれている元素や性質を正確に把握するエフェクト。〈RC〉必要かも。								
代謝制御	★	-	メジャー	至近	自身	自動	-	
効果: 健康、感情も制御できる。								

使用サブリ: 基本①②、上級、LM、EA

一人称: 俺 (裏) 僕 (表) 二人称: あなた (裏) おまえ (表)

UGN生まれUGN育ちのUGNチルドレンの少年。
そのため普通の暮らしを知らない、学校にも任務などでしか行かないため、常識があまりない。

戦闘人格持ちで、その存在は恵一も知っている。また、普段の任務中はその戦闘人格が出ている。表の人格はほとんどでない。

元の恵一は、笑うのがへたくそで、口が悪い。生に貪欲。
戦闘人格の恵一は、常に笑っていて、敬語口調。生に無頓着。

PC2 ロイス: 緒方レミ 推奨感情: 有為/厭気
カヴァー/ワークス 任意/UGNエージェント
緒方レミは、UGNの研究員であり、キミの戦闘用人格の調整にも関与している。
キミがN市に赴任した際も、サポートのためについてきてくれた。
だが、彼女はUGNを裏切り、FHIに転向した。平然と仲間を虐殺し、キミについてくるように言うのだった。